

がぶくしゅー

輸入増と低価格に喘ぐ日本の米生産の現状を分析し、WTO次期農業協定交渉への対策を講じる、専門家による時宜を得た解説書である。JAGグループの学習用資料として手元に置いておきたい一冊。

第一章『国産米サヨウナラ、輸入米コンニチワ』にならないように」では日本の食生活に大きな影響を与えた米国の戦後の小麦戦略を、第二章「これでわかる米輸入のしくみ」では、ミニマム・アクセス(MA)方式と関税化方式、関税割当制度などを解説している。

第三章「輸入米は、大幅安値で取り引きされる」では年間六五万トンにのぼるMA米の入札方式を解説し、このうち、売買同時入札(SBS)方式は外食産業などの事前発注により、形式上は国家貿易だが民間貿易に限りなく近いとしている。第四章「米市場の現状と日本が抱える三つの問題」によると、日本は世界第五位の米輸入国、最大の飼料輸入大国であるが、国際市況ではタイ米の輸入価格は一〇年前と比較して二倍に高騰している。

第五章「国産米価格を脅かす輸入米」に

「恐るべき「輸入米」戦略

WTO協定から米と田んぼを守るために

河相 一成著(合同出版)

よると、食糧庁のMA米の安全性確認経費が大きく削減されている。米備蓄方式は現行の回転備蓄方式ではなく、棚上げ備蓄方式であれば生産者米価の引き下げ要因にならない。第六章「米輸入自由化の舞台裏」では、米関税化よりMA米方式の方が国内への影響が小さいとしていたのが、四年も経たないうちに輸入を自由化したのは、何か外圧があったのではないかとしている。

第七章「世界の食糧に起きていること」では、世界の栄養失調・飢餓人口約八億人の大半がアジア・アフリカ地域に集中して

おり、日本が輸入している飼料穀物二、〇〇万トンは九、〇〇〇万人分の食糧に相当するとしている。第八章「恐るべき食糧自給率の低下と規制緩和症候群」では、日本の穀物自給率は世界で一三〇番目の位置にあり、イギリスが穀物自給率を大きく向上させているのと対照的という。第九章「食・農を脅かす多国籍企業・WTOの戦略」によれば、日本政府は自主流通米奨励金をはじめとする価格安定対策費を大幅に削減しているが、アメリカ政府は自国農産物への「直接支払額総額」(価格支持と直接

支払いを含む)をWTO農業協定を無視して五倍に増額している。

第一〇章「WTO協定」のどこを改正するか」では改正点として次の五点を挙げている。第四条(包括的関税化条項)の廃止。米のMAと関税化の廃止、あるいは、MA米の輸入数量をとりあえず大幅に減らす、すべてのMA米にマークアップの上限を適用するか、上限の引き上げを行う、売買同時入札数量の削減が廃止、MA米の安全性確認の方法と結果とを情報公開する。

国内助成削減の廃止。農産物価格支持のための政府予算をこれから削減する「改革過程の継続」条文の削除。「衛生植物検疫措置の適用に関する協定」(SPS協定)に定められた「コーデックス委員会」の食品の規格基準にWTO加盟国が従うという条項の廃止、および国際基準と異なる基準を採用する際の科学的根拠の定義を具体的にさせる、国際基準の適用対象からさしあたり地方自治体および関連団体を除く。

次期交渉ではわが国の立場を堂々と主張すべきであろう。

(二〇〇〇年九月、一九一頁、一、四〇〇円)

(桜井慎悟)

